

中心市街地活性化

第2期へ向けてフォーラム

福知山の協議会 1期の成果など話し合う

今年3月15日に国から第2期の福知山市中心市街地活性化基本計画が認定されたのを受

け、市中心市街地活性化協議会は26日、篠尾新町のサンブラザ万助

で、計画の目標と概要の周知を図ることなどを目的とした認定記念フォーラムを催した。

会場には若年層も含めて120人が訪れ、計画の概要説明などに聴き入った。

中心市街地活性化基本計画は「歴史と文化が育んだ豊かな暮らし

と賑わい交流のまちづくり」を目指し、第1期は11年3月から16年3月まで取り組んだ。第2期計画の目標は

第1期に「城下町福知山の個性を現代的にアレンジし、新たな価値を創造する」のサブタ

イトルを付け加えた。主要事業は、未利用の文化財級の大きな歴史建築を活用し城下町の風情を生かす賑わいエリアの形成▽駅正面通りの未利用の空間の活用、集客施設づくり▽厚生会館の改修▽イ



討論を繰り広げるパネラー

ンバンド観光の拠点として町家活用ゲストハウス施設整備で、それらの概要を説明した。

このあと、6人をパネラーに迎え、活性化まちづくりのこれまでの成果と課題をテーマに、パネルディスカッションをした。ゆらのガーデンは水を乗り越えてリニュー

アルした昨年5月から3月末までに延べ18万人強の人が来店したことなどを成果とし、客が望む定着イベントの企画、駐車場、芝生広場の活用方法などを課題に挙げた。

このほか、活性化第2ステージに期待すること、行政の支援策の紹介、パネラーの実現したいことなどについて考えを出し合った。一般参加者からは、町家を安易にゲストハウスとして利用するよりも、高齢者、若者向けの住居を考えてはどうかという意見が盛り上がるなど、討論会は盛り